

34-7 地中海古代都市の研究 (107)

メッセネのギムナシオンのストア調査2000 (1) - 遺溝の概要

大学院自然科学研究科 助 教 授 伊 藤 重 剛
博士前期課程 吉 武 隆 一

ギリシアの古代都市メッセネは、ペロポネソス半島南西部カラマタの北西20kmに位置しており、紀元前369年に建設された。近年、クレタ大学のペトロ・テメリス教授の主催するメッセネ考古学協会が発掘調査を行っている。熊本大学の調査隊は1997年から建築担当としてこれに参加しており、ギリシア隊が発掘した建築遺構を実測するというかたちで、共同調査を行ってきた。2000年夏には、スタディオンを取り囲むギムナシオンのストアの遺構を調査したので、本稿では主に遺構の概要について報告する。また、実測した遺構については、平面図を50分の1の縮尺で作製した。また、現場からはストアの多数の部材が出土しており、それらの幾つかを実測し10分の1の縮尺で図面を作製した。

ストアは、ドリス式ストアで南北方向に造られたスタディオンを東、北、西の三方から取り囲むようにコの字型に建設されている。つまり、スタディオンを中心に、これと一体となった左右対称で軸線的な平面計画をもっている。これは、古典的なヘレニズム時代の特徴だが、これほど明確なギムナシオンの平面は他に類例がない点で、重要である。

また3つのストアのうち、北ストアだけは外部と内部の2列の列柱、東、西ストアは外部列柱だけをもっている。各々のストアは、北ストアと東ストアスタイロベート上で $92^{\circ} 31' 16''$ 、北ストアと西ストアが $94^{\circ} 41' 52''$ の角度をなしており、90度よりも僅かに開いている。この東西のストアの開きについては、恐らく周辺の街路に沿わせた結果と思われるが、周辺が未発掘なためよくわからない。

遺構の年代については、研究途中ではっきりとしないが、テメリス教授によると紀元前3世紀頃とされている。しかし、建設後の改変や増築の跡、排水口の有無等から、東ストアから北ストア、西ストアへとL字型、コの字型へと、少なくとも三期か四期の段階を経て発展したと推定される。

(日本建築学会 九州支部研究報告 第40号2001年3月)